

平成29年度学校評価(重点目標) 松本筑摩高等学校 通信制

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、1. 知性の涵養、2. 品性の陶冶、3. 心身の練磨を目的とする。		「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
今年度の重点目標					
1. いじめ、暴力を絶対に許さず、生徒一人一人を大切に指導の実践 2. 単位修得率向上と基礎学力を身に付けさせるための学習指導の工夫・改善 3. 社会の一員として生きる力を育成するためのキャリア教育の実践					
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
全般	キャリア教育の推進	1	B	進路講演会・面接講座等や生徒との対話の中でアドバイスをし、自己の将来像を意識させることができた。また、学校設定科目「就職チャート」を新設し、30人が単位修得に至った。また、その約半数が就職につながった。	学校設定科目「就職チャート」の内容をさらに充実させるため、レポートの改善に取り組む。また、生徒に諸行事への参加を促し自己肯定感を育む。
		2	A	今年度基礎学力定着の目的から新設した「ベーシック数学」は、学習習慣のある生徒は単位修得につながることができたが、学習習慣のない生徒は途中で諦めてしまう傾向が見られた。レポート内容も含め今後もさらに生徒の実態に即した内容となるように見直しをしていく。 来年度から「国語表現」は、進路指導につながるような作文の基礎的な学習の内容も含むので、前期科目にも開講し、多くの生徒が選択できるようにした。また、「数学A」についても通年科目から半期科目とし、前・後期両方に開講して選択幅を広げた。「科学と人間生活」では、多人数による授業の支障を解消するため、前期は1学年以外、後期は1学年のみ選択可能と選択者群に制限を設けた。	新たな取り組みが、生徒の実態に即した改善であったかどうか検証し、より良い方向性を模索していく。
学習指導	教育課程	3	A	昨年度に引き続き視聴覚的効果を高める教材を授業に取り入れた。また限られた授業時間を補うための補助プリントの作成に取り組んだ。	個々への丁寧で解りやすい添削や個別指導を継続し、新たな教材の研究や授業の工夫に取り組む。
		4	A	個々の生徒の単位修得につながられるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	レポート提出後に指導期間を設ける締切設定の改善を行っていく。
		5	A	学習意欲を喚起するための情報発信や支援ができたか。	メール配信システム(絆ネット)への加入維持には引き続き取り組む。また広報誌「筑摩」の誌面充実にも力を注いでいく。
		6	A	学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身に付けさせることができたか。(授業中のマナー、禁煙、学習室の利用方法)	小さなことでも、職員全体の共通理解をするために、会議の場に出す。担任のみならず、学年・係全員で解決の方向に向けて対応する。
		7	A	バイクや自動車の通学許可制を導入し、交通マナーを向上させることができたか。	駐車場の駐車場の利用が許可され、係で整備した。一方通行等の決まりごとが、見やすい看板を作ることで分かりやすくなった。バイク、自転車の駐輪場も同様に整備した。全職員の立ち番のおかげで、マナーもよくなってきている。前期、パトカーの巡回はありがたかった。
生徒指導	安全・安心な学校づくり	8	A	IDカードの携帯は、ほぼ定着してきている。忘れてきた生徒が、担任や第一職員室から借りて返さない問題が起きている。	IDカードを返却しない場合、カード代金(130円)を徴収するなど指導していく。
		9	B	全職員での一人一人の生徒についての共通理解ができていない。	引き続き、職員間の情報の共有とコミュニケーションを忘れずにしていく。
		10	A	相談室、担任、学年、全職員との情報の共有・連携がスムーズに行われ、個々の指導に役立てることができた。	カウンセリング希望に応えられるようより充実した体制作りのため関係機関へ協力を要請していく。
進路指導	進学、就職指導の充実	11	B	生徒の希望を受けながら、係・担任以外の職員も協力し、進学指導・就職活動を通して各生徒の成長を促し、志望した進路先に歩みを進めさせることができた。	就職希望者には就職チャートの受講を勧め、講演会や講座に参加する機会を増やし、進路に対する意識を高める。進学者に対する講演会を企画し実行していく。
		12	A	希望管内の求人一覧の送付や前期就職チャートの開講により進路への意識を高めることができた。	
生徒活動	生徒自主活動の充実	13	A	地区役員を中心に、計画・実行できるよう支援ができた。多くの生徒が参加できるように、呼びかけたり、工夫したりすることが必要である。	地区役員を中心に、地区活動をアピールしたり、興味・関心を持てるように考えていく。
		14	B	レポート締切日と重なっていたこともあり、参加生徒が少なかつたが、日ごろ行き届かない箇所の清掃ができた。	美化係と日程調節をしながら、協力して実施する。
学校運営	円滑な学校運営	15	B	HPや学校案内パンフレット、振興会報等、互いの連絡を密に取り進めることができた。また転籍生徒についての新旧担任の情報交換会を設定し、指導に有効であった。	他パートとのさらなる連携を図る。生徒の実態に合わせて、通信制の発表のあり方について検討をしていく。転籍生徒の受け入れや併修制度の活用については、丁寧に情報交換を行い、連携していく。
		16	A	チェック体制のもと多様な生徒の膨大なデータを支障がないよう正確に処理が行えた。	チェック体制をより充実させ、管理規定に従った情報管理を徹底する。
		17	C	学校安全委員会や施設委員会により改善事項は明確にできたが、予算的な面もあり全ての改善はなされず老朽化に拍車がかかっている。この面では生徒に対し良い学習環境は提供できていない。	生徒の学習意欲向上のためにも学習環境改善に向け、職員も努力するとともに、関係機関へも協力を要請していく。
		18	B	生徒の実態に応じて各部・委員会で検討・改善を行い、職員間で情報共有が行えた。	各課程内だけでなく、学校全体での情報共有にも引き続き取り組む。
		19	A	年7回の「筑摩」の発行、諸行事のHPへのアップや情報の更新が行われ、わかりやすい情報が提供できた。	HPの掲載する内容については、中学生や地域の方々により多くの情報が提供できるよう工夫を行う。
20	B	環境整備作業、文化祭への参加協力等を怠らなかつた。	通信制の特殊性に甘えることなく取組みの機会を見つける努力を行う。		